

自己評価シートの変化が学習者の評価態度に与える影響

——会話授業の自己評価に見られる変容から——

中村フサ子・斉木ゆかり・小笠恵美子

1. はじめに

自律学習のサイクルに不可欠な自己評価活動は、その必要性は認識されているものの、なかなか活用が進まないという問題が指摘されている（トムソン 2008）。また、学習者の自己評価には信頼性がなく意味がないという指摘もある。しかしながら、本稿では自己評価を「学習者が自身のパフォーマンスを目標と照らし合わせ、目標が達成できたか否かを判断すること」¹⁾とし、学習者がパフォーマンスの向上のために現在の状況を知る手段となり、意義あるものとする。これを踏まえて、自己評価活動に不慣れな学習者がより効果的な評価活動を行う方法を探った。

2. 研究の背景と目的

2010年度に筆者らは日本語の中級レベルのクラスにおいて、「依頼」「勧誘」「提案」といった機能的な表現を伴う会話学習の研究と実践を進めてきた。そこでは上記の状況でのロールプレイを行い、その前後に自己評価をするように、学習者に指示した。これらの活動の結果、多くの学習者が評価活動で目標として取り上げた発話量の増加と相槌には大きな変化が見られたものの、友人同士の会話表現（文末や人称）は改善しなかった。また、（1）自身の発話に対する内省が足りない、（2）内省に基づいた発話がなされているのかが確認できないなどの問題が認められた（小笠他 2011）。

そこで、効果的な自己評価のためには教師のサポートと評価シートの改善が必要ではないかと考え、学習者の気づきを促し、次の行動を起こさせるような自己評価シートの作成に取り組んだ。さらに、学習者が自己評価シートに記述した内容から、この自己評価活動を通して学習者が自身の発話をモニターするかどうかを検討した。

本研究では、自己評価シートの変化・自己評価シートの記述内容の時系列変化・学習者の感想などから、改善された自己評価シートの有効性を検証し考察する。

3. 先行研究

学習者の「自己評価」について、梶田（1983）は「自分自身を振り返って自分なりに吟味」（p.184）「客観的な妥当性を持つ自己認識の成立」（p.185）「自分のあり方を分析的に吟味」（p.186）する機会としてその意義を認めている。また、ガニエ他（2007）は「学習のパフォーマンスに対して自己評価することも学習者の動機づけとパフォーマンスに影響を与える」（P.133）とし、学習者が「自分自身のパフォーマンスを評価し、その記録をとり続けること」の重要性を認めている。上記のような自己評価の意義から、評価が妥当であるか否か以上に、学習者に学習の目標と評価観点を考える機会を与えることが重要であると考えられる。この「自己評価」は言語教育においては、1980年代後半から盛んに提唱された「学習者中心」（Nunan 1988）、「自律学習」（梅田 2005）の総合的サイクルの必須要素であり、次の学習のサイクルの目標設定に不可欠なものとされている（トムソン 2008）。

自己評価については、学習者が自己を過大評価・過小評価する例を挙げて「妥当な判断が難しいのではないか」という観点からその意義を問う声も聞かれるが、本稿においてはそのような意味での妥当性のみで自己評価の意義を判断しない。小山（1996）は、学習者をより主体的で自律的な学習へと導くために、少なくとも学習者自身が自己の学習目標や学習プロセスを意識化できることが必要であると考え、そのために自己評価が有意義であり、実際に可能であることを検証している。

トムソン（2008）では、評価の妥当性は自己評価に限った問題ではない点から、その有効性を妥当性だけで測ることはできないとするとともに、学習者にとって、自己評価を試行錯誤して自分を構築していく機会が重要であるとしている。

自己評価の妥当性については、評価表のフォームの違い、研究の目的やデザインの違いなどから一貫した結果は出ていないが、自己評価の意義を梶田（1983）の提唱するように「自分のあり方を分析的に吟味する」と考えると、評価が妥当であるか否か以上に、学習者に学習の目標と評価観点を考える機会があることの方が重要であると考えられる。

本研究で対象とした授業では、学習者による自己評価を、学習プロセスの意識化、自己の客観化を目的として毎回記述による自己評価を行った。そして、学習者がより具体的に自己評価が記述できるように評価シートを作り変えてきた。本稿では、こうした評価シートの変化が学習者の自己評価、および授業中のパフォーマンスにどのような影響を及ぼすのかを考察する。

4. 実践概要

4.1 学習者の背景

本会話クラスを行った中級クラスには10名の学習者が在籍し、国籍と男女別は以下の通りである²⁾。学習者は20歳前後で、本研究以前に大学教育を受けた経験のあるものは1名である。日本滞在期間は1名をのぞき、半年から1年である。

国籍：中国（男3・女3）、韓国（男2）、タイ（男1）、カナダ（男1）

4.2 授業の流れ

本学では2010年度から中級クラスで会話授業を行い（中村他 2011）、その中で自己評価シートを導入し学習者に内省を促す中級会話授業を行ってきた（小笠他 2011）。

2011年度の本実践は全15週225コマ（1コマ90分）のコースの中で週に1回、約45分を使い、機能会話³⁾と対話⁴⁾をロールプレイで練習し、毎回会話を録音し Moodle にアップロードした。授業は、①評価シートへの目標の記入、②モデル会話の提示と説明、③ロールプレイ、④評価シートへの目標達成度の記入の手順でおこなった。

具体的には、①その日の会話練習の前に、学習者は教師によって注意点等が書き込まれた前回の会話トランスクリプションを受け取り、このトランスクリプションを読み、「たくさん話すために」「上手に話すために」その日は何に注意するか自身の目標を評価シートに書き入れる。次に、②その日の会話練習のテーマやモデル会話、注意点が書かれたプリントが配布され、教師による説明が行われる。その後、③実際にロールプレイで練習を行い、録音し、それを Moodle へアップロードする。④練習・録音後にその日の自身の目標とその日のクラスの目標が達成できたかどうかを評価シートに記述する。

この評価シートに、本論では焦点を当てる。最初は、ロールプレイの前に自身の日本語使用状況を振り返って目標を書き、その上で録音した自分のパフォーマンスを評価するものであった。しかし、自身を振り返るために「会話で難しいと感じたこと」を書かせようとしても、「ない」という回答や無記入のままであるという問題があった。そこで、学習者が自身の問題点を具体的に記述できるように質問内容を改善したり、記述だけでなく選択肢から選ぶ方式を取り入れたりするなどの改善を学習者の反応を見ながら段階的に行った。その結果、学習者の記述内容も変化していった。

5. 結果と考察

本研究では自己評価シートの変化、学習者の発話、学習者の自己評価シートの時系列変化、学習者の感想から自己評価活動の意義を検討する。

5.1 自己評価シートの改定と学習者の変化

自己評価シートはコース中6回の改定を加えた。具体的な改定項目と学習者の変化を表1に示す。6回目から学習者に提示した選択肢を表2に示す。

表1 主な質問項目の改定と学習者の変化

回 (月/日)	質問項目	学習者の変化
1回 (4/18)	会話で難しいと感じたこと	1回目：10名中4名が無解答，2名が問題なし 問題点：評価の表現方法 評価の意図の理解
2回 (5/9)	今日の目標・来週の目標	
3回 (5/16)	今日の目標・うまく話せた点	3回目：無解答者1名（欠席1名） 問題点：表現が抽象的（例「ちょっと上手に」「自然に」など）
4回 (5/23)	今日の目標・感想・注意したこと・現在の問題	
5回 (6/13)	会話の時の問題点（記述）・今日の目標（たくさん話すために）・今日の目標（上手に話すために）・今日の目標はできたか・まだ難しい点	5回目：記述量の増加 問題点：毎回同じことを記述 表現がまだ抽象的
6回 (6/20)	会話の時の問題点（選択肢）・以下6/13と同じ	6回目：選択された延べ選択肢数13 それまでと異なる観点から自己を評価

表2 6回目以降に示した選択肢の例

* 会話をするときの現在のあなたの1番の問題点は？	
①目上の人と話すとき「です・ます」で話せない。	②親しい人との話し方がわからない。
③「わたし」や「あなた」を使ってしまう。	④「頼む ^{たの} 」表現が上手に使えない。
⑤「誘う ^{さそ} 」表現が上手に使えない。	⑥「意見」の表現が上手に使えない。
⑦上手に断れ ^{ことわ} ない。	⑧理由を考えることが難しい。
⑨目的にあった話しの始め方ができない。	⑩上手に会話を終わることができない。
⑪発音が悪い。	⑫文法の間違 ^{まち} いが多い。
その他： _____	

1回目から6回目までの評価シートの改定とともに学習者の記述は、より抽象的なもの（うまく話す、上手に話すなど）から具体的なもの（「です／ます」を使わない、「私」や「あなた」を使わないなど）へと変わっていった。その変化の詳細を以下に述べる。

1回目の評価シートでは「会話で難しいと感じたこと」について10名中4名が無記入，2名が問題はないと答えた。このような結果になった理由は学習者が質問の意味を理解しなかったか、理解できてどのように表現したらよいかわからずに何も記入しない、あるいは回避（問題はないと回答）したのではないかと考えられる。また、問題があると答えた学習者も抽象的な表現（例：はなすとき、内容を作る時（が難しいの意））を使用した。

そこで2回目の評価シートは「今日の目標」と「来週の目標」を記入させた。すると9名中、「今日の目標」の記入者は8名、「来週の目標」は6名と増加したが、まだ表現は抽象的な（文をもっときれいに作る、ちょっと上手に、自然に話すなど）ままであった。

3回目は「今日の目標」を書き、練習と録音をした後、その結果について自己評価をさせたところ出席者8名中7名が記入したが、まだ表現は抽象的なままであった。

4回目では「今日の目標」は10名中10名が記入，練習後の「感想」は10名中9名が記入した。表現も「話を続ける、ゆっくり話す」（学習者D）など具体的になり、注意した点についても「ゆっくり話し、発音に注意した」と記述しており、目標を意識しながら練習していたことが分かる。また、現在の問題（例：発音が変）からモニタリングを行っていたことがわか

る。

4回目には上記のような改善がみられたものの、5回目の評価活動で書かせた「会話の時の問題点」で、再び抽象的な表現が増加した。そこで6回目には、「会話の問題点」として考えられるものを箇条書きにし（表2）、学習者がその項目の中から、自分の問題点と思うものを選ぶようにした。

このように自己評価シートを改定して学習者の反応を観察したところ、5回目までは、学習者が記述する自己の問題点は毎回同じであったが、6回目からは今までとは異なる視点で自身の発話を振り返っており、選択肢が与えられることによって、今までと異なる自身の問題点に気がつく学習者もいることがわかった。

5.2 各学習者の自己評価シートの変化

実際の学習者の自己評価記述を時系列に見てみると、大きく三つのタイプに分かれた。第1のタイプは、自己評価の意義を最初から理解し、回を重ねるごとに記述も具体的になるタイプである（学習者A, B, C）。第2のタイプは、最初は無記入であったり、問題意識が認められない記述（例：「自分はできた、相手ができていない」）をしていたが、途中から記述できるようになるタイプである（学習者D, E, F, G）。第3のタイプは、最初から最後まで自己評価の記述が少ない、あるいは記述があっても目標と評価の記述内容が一致しないタイプである（学習者H, I, J）。以下でそれぞれのタイプについて考察する。

5.2.1 第1のタイプ例

第1のタイプ（初めから自己評価ができていたタイプ）の例として、学習者Aを表3に示す。（ほかの2学習者BとCについては資料1を参照）

この学習者は目標とする内容として、「もっといろんなことを言う」「です、ます、普通形に注意する」を5月上旬で挙げており、その後も同様の記述が続く。「もっといろんなことを…」という記述は、その後「場所・時などを詳しく話す」、「意見の表現」、「いろんな言い訳を話す」、「上手に苦情を言う」といったように内容が具体的になっていっている。また、「です、ます」など、文体に関することについてはコース開始時から終了近くまで一貫して具体的に記述していた。総じて、記述量が多く、具体的な自己評価をしており、さらに、会話時の問題点が選択式になると、「私という言葉を使わない」「会話の終わり方に気をつける」といった、今まで記述されなかった問題点を挙げた。第1のタイプの学習者は、評価シートの変化が自己評価について考えるきっかけになったと考えることができる。特に、選択式の自己評価は、今までとは異なる観点から自己を見る契機となっている。

表3 タイプ1の学習者の時系列評価シート

月日	質問	学習者A
4月18日	会話で難しいと感じたこと	先生としての話題・難しいのではない
5月9日	今日の目標	ほかの物を言って借りる話に入る
	来週の目標	もっといろんなことを言う・です、ます、普通形に注意

5月16日	今日の目標	いろいろ話す
	うまく話せた点	二人にサポートをして3人のコンボができた
5月23日	今日の目標	パーティの場所、時間、誰、ですますに注意
	感想	詳しく話した
	注意したこと	です・ます、先生の話し方内容を詳しく先生が感心なことを言う、
	現在の問題点	
6月13日	会話の時の問題点	意見の表現
	今日の目標：発話量	相手の会話を繰り返して話す
	今日の達成度：発話量	できた
	今日の目標：上手に話す	たくさん表現する
	今日の達成度：上手に話す	自分のことも人のことも話せた
	まだ難しい点	他人の理由を再表現して感想を言うこと
6月20日	会話の時の問題点（記述）	
	今日の目標：発話量	いろんな言い訳をはなす
	今日の達成度：発話量	実情をたくさんいいました
	今日の目標：上手に話す	上手に苦情を言うこと
	今日の達成度：上手に話す	です・ますに注意
	まだ難しい点	いいわけはあまりできませんでした
6月27日	会話の時の問題点（選択）	③「わたし」④「苦情」⑩会話の終り
	今日の目標：発話量	もっと理由を言う
	今日の達成度：発話量	たくさん話した
	今日の目標：上手に話す	文法や「です」「ます」に注意
	今日の達成度：上手に話す	相手の話を反論する
	まだ難しい点	理由が少ない
7月11日	会話の時の問題点（選択）	欠席
	今日の目標：発話量	
	今日の達成度：発話量	
	今日の目標：上手に話す	
	今日の達成度：上手に話す	
	まだ難しい点	

5.2.2 第2のタイプ例

第2のタイプ（途中から記述ができるようになるタイプ）の学習者の記述の例として、学習者DとEについて表4、表5に示す（ほかの2学習者F、Gについては資料2を参照）。

学習者Dの前半は無記入が目立つ。6月から「敬体」「です、ます」といった学習の必要性について言及しはじめる。その後、上手に話すために必要なこととして、敬体と常体の使い分けを目標に挙げ続ける。6月20日の評価表からは、発話量の増加のための目標を書く欄ができ、そこには、「理由を言う」といった内容に関する目標が書かれている。会話時の問題点が選択式になると、それまでは言及しなかった「私ということばを使わない」という項目を選んでいた。また、「意見の言い方」が難しいとも書いている。このように、少しずつ、問題点や

表4 タイプ2の学習者Dの時系列評価シート

月日	質問	学習者D
4月18日	会話で難しいと感じたこと	無記入
5月9日	今日の目標	無記入
	来週の目標	
5月16日	今日の目標	文をもっときれいに作る
	うまく話せた点	普通体と敬語はもっと上手になる
5月23日	今日の目標	他の話題を考える, 普通体と敬語に注意
	感想	量は少ないが上手に話せた
	注意したこと	丁寧さ, 断る理由
	現在の問題点	先生を誘う
6月13日	会話の時の問題点	無記入
	今日の目標: 発話量	(判読不可)
	今日の達成度: 発話量	できた
	今日の目標: 上手に話す	予習
	今日の達成度: 上手に話す	たいていできた
まだ難しい点	意見についての話し方	
6月20日	会話の時の問題点 (記述)	
	今日の目標: 発話量	理由をちゃんと言う
	今日の達成度・発話量	いいえ, まだです
	今日の目標: 上手に話す	「です・ます」でよく使う
	今日の達成度・上手に話す	いいえ, まだです
まだ難しい点		
6月27日	会話の時の問題点 (選択)	③「わたし」
	今日の目標: 発話量	理由を言う
	今日の達成度・発話量	はい
	今日の目標: 上手に話す	普通体と敬語に注意する
	今日の達成度・上手に話す	いいえ
まだ難しい点	はい	
7月11日 対話	会話の時の問題点 (選択)	
	今日の目標: 発話量	反論をちゃんとはなす
	今日の達成度・発話量	はい, できます
	今日の目標: 上手に話す	話し方が注意する
	今日の達成度・上手に話す	いいえ, まだです
まだ難しい点	はい	
7月11日 機能会話 (苦情)	会話の時の問題点 (選択)	
	今日の目標: 発話量	苦情をちゃんと言う
	今日の達成度・発話量	はい
	今日の目標: 上手に話す	です・ますで話す
	今日の達成度・上手に話す	はい
まだ難しい点	苦情を言うこと	

目標が増えていった様子が見られる。

学習者Eもはじめ、無記入だったり、「ふつうに話す」などの抽象的な記述だったり、現在の問題点を書く欄に「わたしにはない」と書くなど、自身の会話には問題点がないとしていた。しかし、6月に入ると「わたし・ほくを使わない」という目標を自らたて、目標達成の欄に「注意して使わなかった」と書いていることから、自身の問題点に気づき、自己評価を行うようになったことが認められる。また、注意した点について「ゆっくり話し、発音に注意した」と記述し、目標を意識しながら練習していたことが分かる。さらに、自己評価が選択肢になると「理由を考えることが難しい」とそれまでにはない観点から問題点を意識し、最後には「文法の間違いが多い」を選択し、自身の発話をより客観的にとらえていることが伺える。

表5 タイプ2の学習者Eの時系列評価シート

月日	質問	学習者E
4月18日	会話で難しいと感じたこと	無記入
5月9日	今日の目標	欠席 々
	来週の目標	
5月16日	今日の目標	自然に話す 前よりよくできた
	うまく話せた点	
5月23日	今日の目標	内容を考える、もっとゆっくり会話する できた わたしはなし。相手の発音を聞いて区別することが難しい
	感想	
	注意したこと	
	現在の問題点	
6月13日	会話の時の問題点	頼む表現 いろいろ理由を考えて話す できた 「わたし」「ほく」は使わない 注意して使わなかった
	今日の目標：発話量	
	今日の達成度：発話量	
	今日の目標：上手に話す	
	今日の達成度：上手に話す	
	まだ難しい点	
6月20日	会話の時の問題点（記述）	ゆっくりちゃんと話します はい、十分に話しました 発音をたしかにできるように集中します 発音を気にして話しましたので、大丈夫と思います
	今日の目標：発話量	
	今日の達成度：発話量	
	今日の目標：上手に話す	
	今日の達成度：上手に話す	
	まだ難しい点	
6月27日	会話の時の問題点（選択）	ゆっくり はい、できました 発音を気にする できました
	今日の目標：発話量	
	今日の達成度：発話量	
	今日の目標：上手に話す	
	今日の達成度：上手に話す	
	まだ難しい点	

7月11日 対話	会話の時の問題点（選択）	⑦（苦情を言う際の）理由を考えることが難しい
	今日の目標：発話量	ゆっくり話します。ずっと考えます
	今日の達成度・発話量	できました
	今日の目標：上手に話す	発音に気をつけてしました
	今日の達成度・上手に話す	できました
	まだ難しい点	理由を話すことが難しかったです
7月11日 機能会話 (苦情)	会話の時の問題点（選択）	⑫文法の間違が多い
	今日の目標：発話量	ゆっくり話しました。ずっと考えて会話しました
	今日の達成度・発話量	できました
	今日の目標：上手に話す	発音を気を付けてしました
	今日の達成度・上手に話す	できました
	まだ難しい点	言い訳を考えること

このような変化が見られた理由としては、次のような教師の働きかけ、すなわち、①評価シート項目を細かくして、自身の発話に意識が向くようにしたこと、②評価シートの記入前後に教師が評価の意義を伝えたこと、③評価シートに対する教師のフィードバックとして、曖昧な記述に対する説明の要求があったことに学習者が応じたからだと考えられる。と同時に、評価シートの改善がこのタイプの学習者に有効であったと認められる。

5.2.3 第3のタイプ例

表6 タイプ3の学習者の時系列評価シート

月日	質問	学習者H
4月18日	会話で難しいと感じたこと	無記入
5月9日	今日の目標	無記入
	来週の目標	
5月16日	今日の目標	欠席
	うまく話せた点	欠席
5月23日	今日の目標	話を続ける、ゆっくり話す
	感想	できた
	注意したこと	ゆっくり話し、発音に注意した
	現在の問題点	発音が変
6月13日	会話の時の問題点	欠席
	今日の目標：発話量	
	今日の達成度：発話量	
	今日の目標：上手に話す	
	今日の達成度：上手に話す	
	まだ難しい点	
6月20日	会話の時の問題点（記述）	欠席
	今日の目標：発話量	
	今日の達成度・発話量	
	今日の目標：上手に話す	

	今日の達成度・上手に話す まだ難しい点	
6月27日	会話の時の問題点（選択）	⑫文法
	今日の目標：発話量	いろいろな考えをします
	今日の達成度・発話量	だいたいできました
	今日の目標：上手に話す	発音をかんがえてします
	今日の達成度・上手に話す まだ難しい点	できました やはり、文法のほうが難しかったです
7月11日 対話	会話の時の問題点（選択）	②
	今日の目標：発話量	かんがえる
	今日の達成度・発話量	できた
	今日の目標：上手に話す	練習する
	今日の達成度・上手に話す まだ難しい点	できた
7月11日 機能会話 (苦情)	会話の時の問題点（選択）	④
	今日の目標：発話量	話をつづける
	今日の達成度・発話量	できました
	今日の目標：上手に話す	発音を注意しながらする
	今日の達成度・上手に話す まだ難しい点	できました

第3のタイプの学習者Hを表6に示す（ほかの2学習者IとJについては資料3を参照）。

学習者Hは4月、5月の前半は無記入がほとんどで、6月に入ってから欠席が多かった。6月最後の記録では「文法」「発音」「内容」全てに言及しているが、今日の目標とした内容と、「目標が達成できたか」という問いに対して整合性のない記入（例：「問題点」を「文法」にしているが、「今日の目標」では「いろいろ話す」「発音」が見られる）。

このように変化が見られなかった背景として、学習者が自己評価の意義を理解していないことがあげられる。しかし、評価シートへの記述はしていたことから教師の更なる働きかけによっては理解を促す可能性があると考えられる。

5.3 学習者の感想

コースの最終日に自己評価シートについて学習者の意見を聞いた。自己評価シートが変わったことで書きやすくなったかとの問いかけに、「そう思った」4名、「そう思わなかった」3名、「気がつかなかった」2名との答えで、学習者の44%が変化の価値を認めている。また、学習者が行う目標設定と自己評価について意見を聞いたところ、「両方ともに役立った」4名、「自己評価だけが役立った」2名、「自由記述が役立った」2名、「あまり役立たなかった」1名、であった。この結果から66%の学生が自己評価シートの意味を認めている。しかし、その中で、自由記述が役立ったという2名の意見は、今後自己評価のチェックリストを作る際に選択式ではない方法を好む学習者の存在も考慮し、自由記述欄を設けることも必要であることを示唆している。

6. まとめ

本研究では会話の自己評価シートの変化に伴う学習者の反応を検討した。その結果、自己評価の記述には三つのタイプ、①自己評価の目的を理解し記述も具体的なタイプ、②コースの途中から自己評価が具体的にできるようになるタイプ、③最後まで自己評価ができないタイプの3タイプの存在が認められた。タイプ1とタイプ2の学習者においては自己評価シートの変化とともに自身の問題点や練習の目標がより具体的に変化していった。また、自己評価シートの項目の変化および教師の学習者への働きかけによって、学習者が自己評価の重要性に気付いていく可能性が認められた。さらに、自己評価を重ねることによって自身の問題点を意識すること、自己評価観点を選択肢として挙げることで学習者は新たな観点で自己を評価する可能性があることが明らかになった。

今後の課題は、①評価シートを学習者のパフォーマンスと照らし合わせてその妥当性を検証すること、②自己評価の記述が少なかったり散漫だったタイプに対する教師の働きかけをいかにしていくかということである。

注

- 1) 評価については、ガニエ他(2007)は「評価 (evaluation) ということばを、評定 (A, B, C), あるいは質 (すぐれている, 普通, 不十分) のどちらかを用いたアセスメントの解釈として用いる」(p.300)と定義している。
- 2) 本学では中級クラス開講直後に、過去に行われた旧日本語能力試験2級を行い学習者の日本語能力を診断している。このクラスの学習者の日本語能力は1名を除き、2級合格レベルに届かない程度であった。
- 3) 本稿では「勧誘」「依頼」「苦情」といった機能的表現を含む会話の練習を「機能会話」とした。学習者はロールプレイで設定された場面、相手に応じた表現(スピーチレベル, 相槌など)を使って会話すること、会話の始まり(話しかける表現)から、会話の終了までの一連の会話ができることが求められる。
- 4) 本稿では1つの話題について、学習者が意見を述べ合う活動を「対話」とした。この活動では相槌, 相手の話をよく聞いた上での反応, 話題展開ができることを求めた。

参考文献

- 梅田康子(2005)『言語と文化』「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割——学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る——」第12号愛知大学
- 小笠恵美子・斉木ゆかり・中村フサ子(2011)「中級学習者による目標設定と自己評価を伴う会話学習の実践——日常会話能力の向上を目的として——」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』第3号 pp.57-66
- 梶田叡一(1983)『教育評価』有斐閣双書
- R.M. ガニエ, W.W. ウェイジャー, K.C. グラス, J.M. ケラー(2007)『インストラクショナルデザイン』北大路書房
- 小山悟(1996)「自律学習促進の一助としての自己評価」『日本語教育』88号 pp.91-103
- トムソン木下千尋(2008)「海外の日本語教育の現場における評価——自己評価の活用と学習者主

中村フサ子・斉木ゆかり・小笠恵美子

導型評価の提案——」『日本語教育』136号 pp.27-37

中村フサ子, 小笠恵美子, 斉木ゆかり (2011) 「中級学習者を対象にした会話タスク」『東海大学国際教育センター紀要』1号 pp.91-104

Nunan, D. (1988) “The Learner-Centered Curriculum” Cambridge, Cambridge University Press

資料1 (タイプ1の学生BとCの時系列評価シート)

月日	質問	学習者B
4月18日	会話で難しいと感じたこと	
5月9日	今日の目標 来週の日標 今日の目標 うまく話せた点 今日の目標 感想 注意したこと 現在の問題点	いっばい理由を考え、話す前によく考える 会話の内容をよく準備する。何度も練習する たくさん話す 相手の話に反応する 断る理由をたくさん考える・敬語に注意する 量は少ない、終わることはよく話さない よい理由を話す。相手の興味できるように理由を考える 敬語 理由を考えることが難しい 行きたいところの説明を詳しくする 京都の紹介がうまくできなかった 何度も練習する あいづちがまだ上手じゃない まだ難しい点
6月13日	会話の時の問題点 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	相手の立場に話す できなかった 準備する できなかった まだ難しい点
6月20日	会話の時の問題点 (記述) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	
6月27日	会話の時の問題点 (選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	③「わたし・あなた」④苦情⑤言い訳⑦上手に謝る⑧理由 その他：たくさん話すことは難しい 理由が三つ考える 以前よりちよとよくなった 頑張る 話す言葉はまだ上手じゃない 話す言葉はまだよくしっていない
7月11日 対話	会話の時の問題点 (選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	④苦情 ⑩上手に終わる たくさん理由を考える たいいでできた できるだけ練習する やっとな練習できた、よかった 目標ができました、でも相槌のことがよくできなかった

月日	質問	学習者C
4月18日	会話で難しいと感じたこと	
5月9日	今日の目標 来週の日標 今日の目標 うまく話せた点 今日の目標 感想 注意したこと 現在の問題点	はなすとき、内容を作る時 頼む理由と断る理由をたくさん考える もつと話題を考える、ふつうに話す たくさん話す ふつうに話す、録音を考えないで話す 理由を考えて来る、練習 あまり話さない、まだ、ます形よく使えない なぜ先生に行ってほしい、なぜ行けないこと ます形 上手に会話を終わらせることができ 理由を考える 沢山できるけど終わるときまだ 文法 文法があまり正しくない 終わるとき です・ます。理由、言い訳 理由と提案 理由と提案 もつと理由が考えたほうがいい ていねいに話 あまりできません 理由と提案
6月13日	会話の時の問題点 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	
6月20日	会話の時の問題点 (記述) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	⑥「意見」⑧理由⑩発音⑫文法 理由 理由が沢山言える 文法 まだ文法があまり正しくない 文法 ③「わたし・あなた」⑥意見 ⑩発音 理由と反論 できた ふつうにはなす できた
6月27日	会話の時の問題点 (選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	
7月11日 対話	会話の時の問題点 (選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	

資料2 (タイプ2の学生FとGの時系列評価シート)

月日	質問	学習者F
4月18日	会話で難しいと感じたこと	無記入
5月9日	今日の目標 来週の目標	まずほかの話題を探す、文型を勉強する まず他の話題を探す、たくさん単語を勉強する
5月16日	今日の目標 うまく話せた点	ちよつと上手に 丁寧な言い方
5月23日	今日の目標 感想 注意したこと	他の話題を話す、誘うの文型を勉強する 量は十分、多分上手にはなせない 敬語を勉強しなければならぬ 断る理由に注意
6月13日	現在の問題点 会話の時の問題点 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	先生に誘う よく予習する 他の話題を話す できた 意見について話す勉強する たぶん 意見を表すことです 欠席
6月20日	会話の時の問題点(記述) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	苦情についてはなし 他の話題を話す できました 苦情について話を勉強する たぶん(できた) 苦情を話すこと
6月27日	会話の時の問題点(選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	もっと句形をべんきょうしたい 他の話題を話す できました 意見を言う たぶん
7月11日 対話	会話の時の問題点(選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	たいていできました

月日	質問	学習者G
4月18日	会話で難しいと感じたこと	なかった
5月9日	今日の目標 来週の目標	
5月16日	今日の目標 うまく話せた点	
5月23日	今日の目標 感想 注意したこと	いつ、どこ、なんなどで 敬語、曖昧表現ちよつと...、～が...など
6月13日	現在の問題点 会話の時の問題点 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	疲れたのでいっぱいまとったところがあった 欠席
6月20日	会話の時の問題点(記述) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	理由と苦情を言う 丁寧で話す
6月27日	会話の時の問題点(選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	他の理由を言う ていねいにはなした
7月11日 対話	会話の時の問題点(選択) 今日の目標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の目標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	理由と反論する フィードバックを使う 普通形を使う 新しい内容は難しかった

資料3 (タイプ3の学生IとJの時系列評価シート)

月日	質問	学習者I	学習者J
4月18日	会話で難しいと感じたこと	対話：相手 話すことが少ない おしゃべりするにくだいです形ます形正しい使用するとき、(結果は気まずい ちよっと難)⇒なし	ないです
5月9日	今日の目標 来週の日標	発音正しい 助詞の使用	いろんなことを聞く、簡単な言葉を使う 無記入
5月16日	今日の日標 うまく話せた点	助詞に正しいを使う たくさん話せます。しかしまだ下手です。よく練習したほうがいいと思う。	無記入 話の中心をうまく話せた
5月23日	今日の日標 感想 注意したこと 現在の問題点	場合、時間、です形、ます形 またありません 男、女のことば 話すことが少なくて ⑧理由を考えることが難しい	理由をいっぱい話す、敬語を使う たくさん話せたか分からない、敬語は使った 敬語 なし
6月13日	今日の日標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の日標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	よく考えたほうがいい まあまあ、考えることが不足 何回も話して よくでききない まあまあ、難しい理由は理由を考えること	欠席
6月20日	会話の時の問題点(記述) 今日の日標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の日標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	⑧理由を考えることが難しい いろいろな教科書を見たほうがいい まあまあ またです 話す時、ちよっと緊張する	無記入 無記入 無記入 無記入 無記入
6月27日	会話の時の問題点(選択) 今日の日標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の日標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	難しくない ⑧理由を考えることが難しい いろいろな教科書を見たほうがいい まあまあ またです 話す時、ちよっと緊張する	無記入 いっぱいはない いっぱいはない ほかの理由を言う ほかの理由を言う 無記入
7月11日	会話の時の問題点(選択) 今日の日標：発話量 今日の達成度：発話量 今日の日標：上手に話す 今日の達成度：上手に話す まだ難しい点	未提出 々 々 々 々 々	無記入 いっぱいはない いっぱいはない なし